様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2017～2018
課題番号：１７Ｈ０６６６７

研究課題名（和文）ドイツにおける移民の統合問題：移民の親の教育期待に着目して

研究課題名（英文）Immigrant Integration in Germany : Focusing on Immigrant parent's aspirations for their children

研究代表者
布川　あゆみ（Fukawa, Ayumi）

東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助教

研究者番号：８０７９９１１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、ドイツにおける移民の統合問題を子どもに対する移民の親の教育期待を切り口に、ドイツでの現地調査にもとづいて分析を行った。
　学校が社会教育（学校外）と新たに連携し、親子参加型のプロジェクト（ノンフォーマル教育）を実施するようになり、ファシリテーターを介することによって、移民の親が子どもの教育をめぐって苦悩する姿が引き出されていた。それを契機に、受け入れ社会側（教師）の移民に対する否定的なまなざし（「教育に無関心な」親というまなざし）が変化していくプロセスを確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　これまでドイツでは「無関心な親」として、移民の親に対して学校現場では否定的なまなざしが向けられがちであり、統合問題は「移民の」問題として位置づけられる傾向がある。しかし、本研究を通して移民の親の教育をめぐる多様な姿が明らかとなり、移民家庭に対する教師のまなざしが刷新されていくプロセスの一端を示すことができた。
　本研究からは、移民の子どものみを対象にするのではなく、その親をも議論に含みこむことで、受け入れ社会の姿勢を問い直すことにつながることが示唆される。

研究成果の概要（英文）：This research analyzes the integration problem of immigrants in Germany based on the field study in elementary school, from the perspective of immigrant parents' educational aspirations for children.
The school has newly cooperated with social education (outside the school area) and has implemented a project with parent-child participation(non-formal education). Through the facilitator, the scene is closed up, that the migrant parents suffering over their child education. As a result, this research was able to confirm the process of changing the negative view to the immigrants(“indifference to education”) from the receiving society (teachers) .

研究分野：教育社会学

キーワード：ドイツ　移民の親　教育期待　受け入れ社会のまなざし　教育社会学

１．研究開始当初の背景

2000 年代に入り、ドイツでは教育制度の整備を進め、移民背景をもつ子どもに努力を求めることでの統合が目指されてきた。しかし今日においても移民と移民背景をもたない子どもの間の学力格差は大きく、当該社会において移民の統合は社会問題として位置づいている。その背景に、移民の子どものみを対象に統合問題を論じることの難しさと限界がある。移民の親も議論に含み、受け入れ社会の姿勢を問い直す必要がある。

２．研究の目的

そこで本研究は移民受け入れ社会ドイツにおける移民の統合問題を論じるため、次の 3 つを研究目的に掲げた。（１）学校現場における「差異」に対する取り組みに着目し、制度面の整備の特徴を捉え、体系化する。一方で（２）親子参加型のノンフォーマル教育に着目し、子どもの教育に対する移民の親の期待や教育へのかかわりを把握し、（３）「関心のない親」として一枚岩的に捉えられがちな移民の親の教育をめぐる多様な姿を論じる。

３．研究の方法

2 年間の研究期間で、次の 3 つの研究課題に取り組んだ。

（１）**「差異」に対する取組の体系化**：ドイツ北部に位置するブレーメン・移民集住地域におけるハイドン校に調査に入り、文化的、言語的、宗教的「差異」に関する教育実践を観察・分析する。

（２）**移民の親の教育期待や教育へのかかわりの把握**：「ファミリーリテラシー・プロジェクト」における移民の親の子どもに対するかかわりを観察し、子どもの教育に対する期待について移民の親への聞き取りを行う。

（３）**移民の親の多様な姿の把握**：移民の親・教師・ファシリテーターの教育をめぐる複雑な関係性に注目し、その影響を検証する。

４．研究成果

ドイツにおける教育学分野の研究では、制度面への関心を強くもち、学校に対する不信感ゆえに学校とかかわろうとしない移民の親を「関心のない親」としてひとくくりにし、これまで移民の親の多様な姿を捉えてこなかった。しかし本研究では移民の親子を対象としたノン・フォーマル教育に着目し、子どもの教育に悩みながら、かかわろうとする移民の親の姿を提示することができた。従来移民の親に対して抱かれてきた否定的なまなざしが変化していくプロセスを明らかにすることができた。受け入れ社会側のまなざしに変化が生じていることに着目することによって、従来の「移民の」統合問題という切り口とは異なる、「受け入れ」側に対する批判的な考察を展開することができた。

また「問題としての移民家庭」というまなざしが向けられがちな家庭（親）だけではなく、「統合に成功している」移民グループの代表格として当該社会で位置づく中国系移民の親の存在にも新たに目を向け、本研究では調査を行った。子どもへの教育期待を切り口に、さまざまなタイプの移民の親にアプローチすることで、「関心のない親」として従来位置づけられてきたドイツにおける移民の親の多様な姿を明らかにする準備がさらに進んだ。

一方で「統合に成功している」移民グループであっても、職業社会への参入においてはさまざまな困難が生じており、学校から仕事への移行において移民背景をもつ人々が抱える特有の困難について、構造的問題があることも明確となり、移民の社会統合をめぐる問題意識を新たにすることとなった。

2015 年のいわゆる「欧州難民危機」を契機に、近年ドイツ社会では「差異」や「多様性」、「統合」の問題が複層化していることが現地調査ならびに文献調査からみえてきている。本研究を通じて提示された受入社会を問い直す枠組みや視角に関して、今後さらに検討を重ね、ドイツにおける移民の社会統合をめぐる問題を移民の側、受け入れ社会の側と双方向的に捉えていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①布川あゆみ（2018）「教育をめぐる学校・家庭・学校外の関係性の変容：ドイツ・ブレーメン州における移民集住地域の終日学校を事例に」『教育社会学研究』 第 102 集、pp.195－215（査読有）

〔学会発表〕（計 2 件）

①布川あゆみ「ドイツにおける移民の社会統合をめぐる問題：中国系移民とベトナム系移民への着目から」『日本教育社会学会第 70 回大会』（2018 年 9 月）

②布川あゆみ「ドイツにおける教育と『多様性』：対応しなければならない課題としての『差異』に着目して」『日本比較教育学会第 53 回大会』（2017 年 6 月）

〔図書〕（計 3 件）

①布川あゆみ（2018）『ドイツにおける学校制度改革と学力問題：進む学校の終日化と問い直される役割分担のあり方』晃洋書房、全 364 頁

②OECD 編著、木下江美・布川あゆみ・斎藤里美訳（2017＝2018）『移民の子どもと世代間社会移動：連鎖する社会的不利の克服に向けて』、明石書店、全 180 頁

③OECD 編著、布川あゆみ・木下江美・斎藤里美監訳（2015＝2017）『移民の子どもと学校：統合を支える教育政策』、明石書店、全 167 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

該当なし

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

該当なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。